

とうにうん

第19号 09年1月8日

JR東海労東二運分会

責任者 庭山義輝

編集 教宣部

ONE FOR ALL ALL FOR ONE

JR東海労 05年サマーキャンプ・スローガン (西湖)
JR総連 OB達の闘いの軌跡・タイトル (05年1月刊行)

組合員のみなさん！

見出しの「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」は、わたしたちが常に労働組合・組合員として心がけていることです。

JR総連 OB達の闘いの軌跡「発刊にあたって」にこう記されています

…想像豊かな職場活動に改めて気づかされました。そこに脈々と流れてる気風は仲間を大切にする気持ちであり、その気持ちは幾多の闘いを通じて培われてきた労働者としての自覚に裏打ちされた友情と連帯である。まさに、先輩たちは闘いのただ中で仲間たちとの友情と連帯を育んできた… と

わたしたちは、この言葉のとおり仲間・組合員・同じ職場で働く者の労働条件や環境改善のために闘ってきました。その闘いは決して「組合」の為でも「会社」の為でもありません。仲間の一人ひとりが安心し、余裕を持って働ける職場にするための闘いです。

組合員のみなさん！ ユニオン・国労組合員のみなさん！

所内誌1月号が自宅に送られてきました。ところで、送られてきた所内誌のタイトルが今年から“One for all all for one”に変更されたことに気付きましたか。

松本所長が所長に就任したのは昨年7月でした。当時、松本所長は、所内誌のタイトル“チーム”東二輸の挑戦を一新し、チーム“とうにゆ”の挑戦としました。この微妙な変更は、前所長への配慮によるものだったのでしょうか。しかし今回の変更は、就任から半年を契機に前任者の呪縛を自ら解き放つための英断かもしれません。

語源はともかく松本所長によれば、特に all for one は「小さな思いが集まることによって一人に大きな喜びを与えることが出来る」「効率的というか効果が大きい」と理解しているようです。個々人の理解は色々あると思います。

しかし、松本所長の結論は「～ひとりとはチームのために、チームはひとりのために～（ゴシックは筆者）」ということのようですが、この場合の「チーム」とは何を指しているのでしょうか？ 少なくとも、ラグビーやテニスのスポーツチームではなく、チーム“とうにゆ”そのものとししか理解できません。

松本所長は「all」を「チーム」と読みかえ、「ひとりひとりが運輸所のために存在し（One for all）と同時に、ひとりひとは東京第二運輸所の仲間に支えられている（all for one）。そしてそれぞれの想いがひとつになると職場が活気であふれ、なにものにも変えられない仕事の充実感を得られます（ゴシックは筆者）」と言っています。

ユニオン・国労組合員のみなさん！

みなさんは国鉄そしてJRになぜ就職しましたか？ 会社＝東京第二運輸所の為に、という人は皆無に等しいのではないのでしょうか。確かに、鉄道が好きで駅員になりたくて、車掌や運転士になりたくてという人はかなりいるでしょう。しかし、それは生活をしていく為の手段であり、出来れば好きな仕事をしたいということではありませんか？

ところが、好きな仕事を一生懸命やっても、残念ながら失敗をしてしまい、耐えられず退職を選んでしまった人もいました。そして、車掌や運転士を続けたいと言っても「還流」で強制転勤させられるのです。新幹線の車掌を続けたいと訴えても叶わず、やむなく退職をした人もいます。会社＝所長がひとりひとりを見て「運輸所のために存在」している、と判断しなければ、ひとりひとりの願いも認められないのが現実ではないのでしょうか。

みなさんは本当に、「仲間に支えられ、それぞれの想いがひとつになり、職場が活気であふれ、なにものにも変えられない仕事の充実感」を得ていますか？ ともすれば、逆らわず自分はいやな目に遭わなければいい、と思っているのではないのでしょうか。会社は、そう思う・命令に服従する社員をつくらうとしているのです。忠誠を誓わない奴を追い出そうとしているのです。

組合員のみなさん！ ユニオン・国労組合員のみなさん！

JR東海だけが特別なわけではありません。会社と労働者の関係は、今の派遣切りや契約解除、内定取り消しが端的に示しています。

みなさんの中にもテレビや新聞で、日比谷公園派遣村のニュースを見た人がいると思います。インタビューに答えた「人の情けを感じました。いつか必ず恩返しをしたい」という言葉が印象に残っていませんか。この人に「いつか必ず恩返しをしたい」と思わせたのは、首を切った会社でも国でもありません。見ず知らずもボランテ

ニアで駆けつけた人だったり、労働組合やその組合員でした。

この、見ず知らずの人達の行動が厚生労働省や東京都を動かしたのです。心の底から仲間を守るのは、仲間です。自らが行動し仲間と共に仕事がしやすい職場にし、この職場で仕事を続けましょう。そのためにこそ労働組合があるのです。

これが、わたしたちJR東海労の
…ONE FOR ALL ALL FOR ONE…
です